

1. 地域の特徴

<対馬市の概要>

九州と朝鮮半島の間に飛び石のように浮かぶ国境離島。対馬島、5つの有人島、100以上の無人島から成る

- ・ 人口：27,905人（R5.10月末現在）
- ・ 集落数：125（半数は200名未満の小集落）
- ・ 特徴：大陸、日本、共通、固有の動植物や文化が混在
- ・ 主産業：他地域に比べ、特に水産業、林業が盛ん



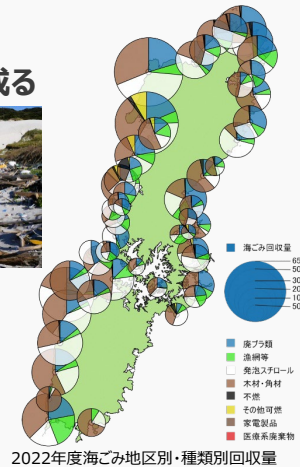
絶滅危機にある希少野生動物



日本で最も海ごみが多い島

<対馬が抱える社会課題>

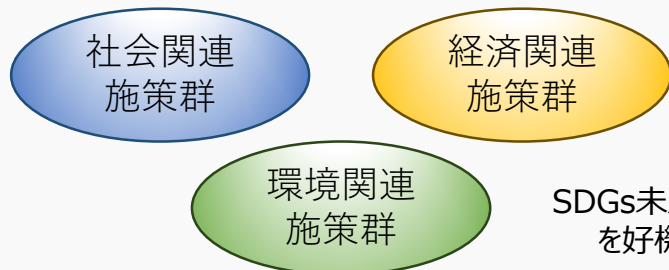
- ・ ローカル…人口急減、地域・産業の担い手不足、交通・医療福祉・教育等のサービス維持、イノシシ・シカの急増と獣害、ツシマウラボシシジミをはじめとする生物多様性の危機 等
- ・ グローバル…異常気象、農林産物の高温障害、マグロ等養殖魚介の大量へい死、藻場消失（磯焼け）、海洋プラスチック汚染、外来生物侵入、韓国インバウンド急増 等



2022年度海ごみ地区別・種類別回収量

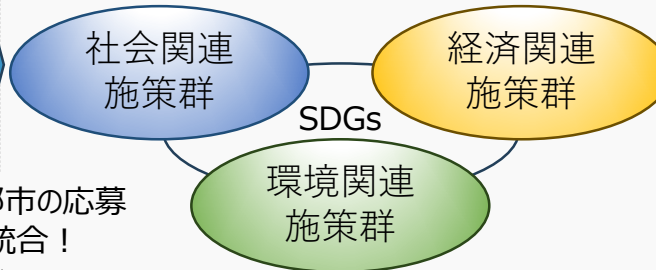
2. 応募のきっかけ

- ・ 本来、すべての行政施策はSDGsのゴール・ターゲットに紐づくもの
- ・ 各施策は優れているが今一つ成果が上がらない
- ・ 隣の壱岐市がSDGs未来都市に選定された…



SDGs未来都市の応募を好機に統合！

- ・ SDGsを通じた施策間の横断的連携（環境・社会・経済の調和と同時解決）と質的向上
- ・ 「島しょ成長モデル」として国内外に貢献する島へ



持続可能なしまの実現 (=SDGs達成)



SDGs Future City Tsushima Island

3. 取組の内容と成果

SDGs未来都市
対馬市のSDGs推進

グローバルな課題解決に向けて、

2030年のあるべき姿

“自立と循環の宝の島”
「人もヤマネコもウミガメも」
森・里・海が連環する
サーキュラーエコノミー
アイランド対馬

ギャップ → 創造的解決手法

地域力が弱まり、
シカや海ごみがあふれ、
生態系サービスを失い、
持続困難な島

現在の延長線上に想定される未来
フォアキャストの対処療法的施策展開のみでは...



全体像 (サーキュラーエコノミーによる環境・社会・経済の自律的好循環)

3. 取組の内容と成果

(1) SDGs推進の基盤づくり

＜庁内の推進体制構築＞

- SDGs推進本部…市長・副市長・教育長・全部局長
- SDGsアドバイザーボード…島内外有識者15名
- SDGs推進員…全部局主任級以上職員1名

＜庁外の啓発/交流対話/学び機会創出＞

- 対馬SDGsパートナーズ…対馬市SDGsアクションプランに沿って活動することを宣言する島内外の企業団体、学校、個人等66者登録
- 対馬SDGsプラットフォーム…パートナーズ間の情報共有の場（slack活用）
- SDGsカフェ…毎月17日にハイブリッド形式開催。主にパートナーズがプレゼンターとなり、参加者全員で活動を応援
- 対馬グローバル大学…web講義、オンラインゼミ（環境、社会、経済等）を展開し、対馬やSDGsに関する教養・専門性を高める学び合いの機会を創出
2020年度～2022年度修了生数152名



SDGsカフェの様子。17日は「みんなでSDGsを考える日」として行動を習慣化するため、毎月SDGsカフェを開催



SDGsスタディツアーの様子（関西経済同友会、在福岡米
国領事館、在福岡韓国総領事館の日米韓合同）



「ブルーアイランド・プログラム」包括連携協定に基づく「対馬未来会議2023」。2050年までに対馬を世界最先端のサステナブル・アイランドにするため、島民、大企業、スタートアップ等総勢60名を超えるメンバーが対馬に集結し、今後の取組課題を設定

(2) サーキュラーエコノミーの活性化

＜連携のきっかけづくり＞

- SDGsスタディツアー（2022年度16団体）/視察・講演・取材依頼の増加

＜SDGs推進連携の確保＞

- SDGs推進連携協定（アスクル、博多大丸、KDDI）
- 「対馬モデル」研究開発連携協定（サラヤ、KSN、ゼリ・ジャパン、関西経済同友会）
- 「ブルーアイランド・プログラム」包括連携協定（ブルーオーシャン・イニシアチブ）

➡ 第2期未来都市計画の自治体SDGsとして発展・具現化

＜海洋プラスチックの利活用促進＞

- 海洋プラリサイクル利用企業の増加（2022年度7社）
- 百貨店（大丸福岡）でのクリスマスツリー等アップサイクル
- 連携企業出資による再資源化新会社設立の検討準備



海洋プラを柄に活用した和包丁

4. 選定されてよかったこと

<連携の確保上>

- ・ 島の付加価値向上
- ・ 連携の相手方としての「選ばれる」妥当性の創出（「連携の理由として、対馬市はSDGs未来都市に選定されており・・・」）

<行政計画論・予算編成上>

- ・ 政策分野別基本計画改定時のSDGs未来都市計画との紐づけ（SDGs視点での計画改定と計画間連携の促進）
- ・ 予算編成方針へのSDGs未来都市計画の紐づけ（自立と循環、島しょ成長モデルとして国内外に貢献等）
- ・ 今後予測されるグローバルリスク回避・緩和・適応の思考を持つことができた
- ・ 「対馬市SDGsアクションプラン」の策定によるSDGs推進の継続性の確保

<普及啓発・ESD教育上>

- ・ SDGsが共通言語となり、未来都市計画が新たなパートナーシップ形成の土台に
- ・ 島の子どもたち、島民、島外の企業、対馬ファン等に対し、未来都市であるという対馬のポテンシャル・正義・夢・希望を対外的に伝えやすくなった
- ・ 対話交流機会の創造（SDGsパートナーズ、SDGsカフェ）
- ・ 学校教育（SDGs教育）支援要請の増加。未来都市計画、アクションプランが教材に
- ・ 島民の誇り意識とアイデンティティ向上への寄与
- ・ 対馬海洋プラ製品/作品を通じた情報発信及び啓発効果、人と人のコミュニケーション促進



SDGsアクションプランを活用した地元中学校の総合学習の様子。学校がSDGs推進のハブに

5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

- ① マンパワー不足
- ② 予算不足
- ③ 市民の理解と行動促進
- ④ 島外の企業団体とのやりとり
- ⑤ KPIの進捗評価（毎年度数値化が困難なものがあり、KPIの数も多かった）



- ① SDGs推進課設置、課員確保（地域おこし協力隊、地域活性化企業人等制）、デジタルツール活用による業務効率化
- ② 企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディング制度の活用
- ③ SDGsカフェ、小中高の学びを基点とした啓発
- ④ 島内の中間支援組織との連携強化
- ⑤ 第2期計画策定において、毎年度数値化と進捗評価が可能で、環境・社会・経済の統合的施策のうち、同時解決性が高いものから1～3つに絞り込む

6. 今後の展開

(1) SDGs主流化のために

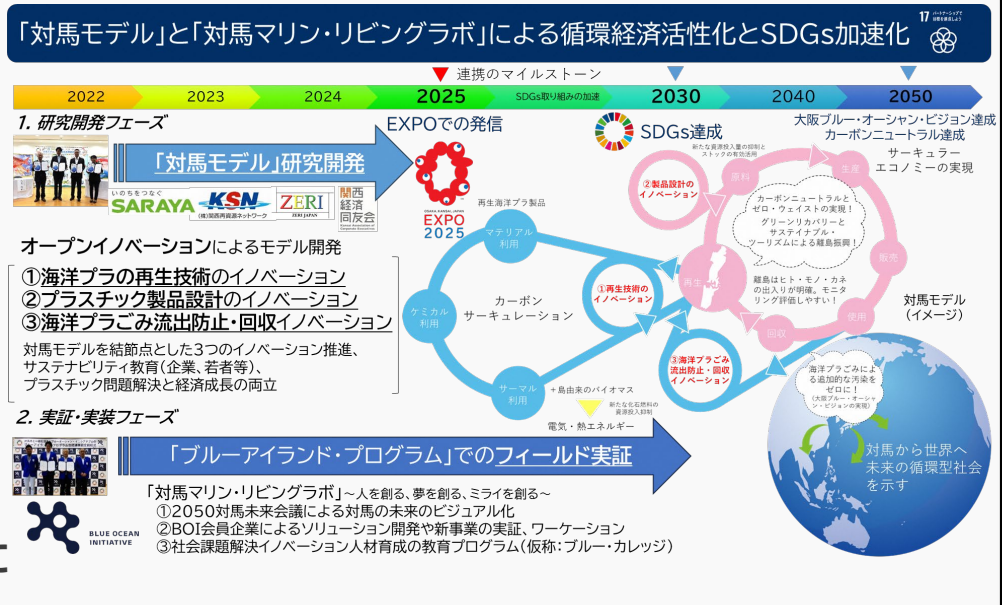
SDGs推進基盤づくり (第1期計画から継続)

- ・ 地域運営組織づくり
…島づくりの社会基盤としてのコミュニティ再構築
- ・ 学校教育/社会教育でのESD
…SDGs学習支援、対馬グローバル大学
- ・ パートナーシップ構築とSDGs実践力の強化
…カフェ、パートナーズ、プラットフォーム

(2) SDGs加速化のために

- ・ 「対馬モデル」と「対馬マリン・リビングラボ」による Goal14を切り口としたSDGs全体への波及 (同時解決) とサーキュラーエコノミーの活性化

➡ EXPO2025での発信をマイルストーンに



7. 他地域への展開等

- ・ SDGs未来都市の中で、全部離島自治体又は一部離島自治体が複数あり、離島の特性を踏まえた SDGs 推進の成果・取組課題・ノウハウの共有に努めたい
- ・ 「全国ESD・SDGs自治体会議」(立教大学ESD研究所主催)等をハブに、「対馬グローバル大学」を水平展開し、リアル大学及び他地域との互換性・互恵性のあるカリキュラムづくりと広域交流を提案したい
- ・ 大阪・関西万博をマイルストーンに「対馬モデル」の研究開発や社会実装に努め、“島しょ成長モデル”として、アジア太平洋諸国、特に島しょ国に対して情報発信することで国際貢献するとともに、対馬が抱えるグローバルな諸問題の根本的解決に努めたい
- ・ 大崎町SDGs推進協議会が「大崎リサイクルシステム」を対馬市で展開し、環境負荷を下げる取組に貢献 (R5.7~)

8. その他

